

# 国語科 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 石元 仁  
場 所：341教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35
2. 対 象： 中学1年1組 14名
3. 科目名： 国語
4. 単元名： いにしへの心にふれる～古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える～  
(入門期の古文)

## 5. 授業観について

### ○生徒観

国語に対して苦手意識を持っている生徒もいるが、授業に対しては比較的前向きな生徒が多い。授業中に積極的な発言を行う生徒はあまり多くはないが、じっくりと考え物事に取り組む生徒は多い。個々の学力差が見受けられるため、きめ細かい配慮を要する。

### ○教材観

本単元は学習指導要領の指導事項である【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】に対応している。

生徒にとって、本単元は中学校において初めて古文について学ぶ単元であり、原文とあらすじを交互に読み進めながら、『竹取物語』の全体構成に触れられるようになっている。入門期の古文教材として適する教材である。

### ○指導観

古文に苦手意識を持たせぬよう、古文学習の導入を行い、基本事項を習熟させたい。

- ・ 古文の基本事項を習得させるため、デキタスを使用し、個々の学力に応じた学習（個別最適化）を主体的に行わせ、生徒が自主的に学習に取り組んでいく姿勢を養わせる。
- ・ 音読を反復させ、仮名遣いや特有のリズムになれさせる。
- ・ 古語の意味を理解させ、自らの力で現代語訳を作成させる。

## 6. 指導計画

- (1) いろは歌・仮名遣いの確認（デキタス「歴史的仮名遣い」視聴学習を指示）…1時間
- (2) 『竹取物語』の冒頭部「かぐや姫の生い立ち」…1時間（本時）
- (3) 『竹取物語』の「蓬萊の玉の枝」の部分…3時間
- (4) 『竹取物語』の「富士山の由来」の部分…1時間

## 7. 本時の指導目標

- ・ 語感を磨き語彙を豊かにできている。【知識・技能】
- ・ 歴史的仮名遣いや古文独特の表現を習得できている。【知識・技能】
- ・ 他者の音読を聴き、正しく読めているか確認し合っている。【思考・判断・表現】
- ・ デキタスを使って古文を習得・理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

## 8. 教材

教科書『国語1』（光村図書）  
資料集『国語便覧（兵庫県版）』（浜島書店）  
デキタス（株式会社城南進学研究所）  
プリント

## 9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デキタスの歴史的仮名遣いについての学習（前時の宿題）について復習する。</li> <li>・『竹取物語』について、昔話の『かぐや姫』であることを知る。</li> <li>・教師の範読を聴き、仮名遣いのルールや区切れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題を、ロイロノートを使用して出題し、生徒に解答させ提出させる。学習の定着度を確認する。なお、定着度の低い生徒には、再度デキタスで振り返るよう指示する。</li> <li>・まんが日本昔話や au のコマーシャルを例に出し、昔話の『かぐや姫』をイメージさせる。</li> <li>・他の昔話も紹介し、古文を身近なものとして感じさせる。</li> <li>・竹取物語の冒頭部をゆっくり、はっきりと音読する。モニターには古文のみを提示する。</li> </ul>
展開 ①	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示に従いながら、音読を行う。</li> <li>・個人練習を行う。</li> <li>・グループ練習を行い、友人にアドバイスを与え、友人からはアドバイスをもらう。</li> <li>・音読をロイロ提出するよう指示を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり、はっきりと音読する。モニターには古文のみを提示する。生徒の音読の様子を見て、2～3度のリピート読みをさせる。</li> <li>・生徒の個人練習時には、机間巡視を行う。生徒の読み方が正しくない場合は、正しく修正する。ハ行転呼音、「む」「うつくし」「ゐ」に注意をしながら、その場で間違いを指摘し、直させる。</li> <li>・生徒のグループ練習時には、机間巡視を行う。アドバイスが適切かどうか注意し、間違っている場合は、その場で間違いを指摘し、直させる。</li> <li>・ロイロ提出の指示を小黑板に記入する。</li> </ul>
展開 ②	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デキタスで学習内容の確認を行う。</li> <li>・現代語訳の仕方を聴き、古語特有の表現を知る。古文の主語の区別がつくようになる。現代語と古語で大きく意味の異なる言葉について正しく意味・イメージを理解する。時代と共に言葉の持つイメージの変化を実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デキタスの適切な学習個所に入れているか、机間巡視を行い、確認する。基本内容は確実に、応用内容は学習の進んでいる生徒に対して促していく。（「古典の単語」「古文の読解」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習するよう指示する。）個別最適化学習の教具として活用する。生徒ごとに解くスピードが異なるため、全員が基本問題を終わった時点で、いったん終了させ、プリントを配布し、復習することを伝える。</li> <li>・基本問題までしかできなかった生徒へ、授業終了後、先に進むよう指示する。</li> <li>・プリント配付。助詞の補い、古典の単語の知識などの説明をする。配付プリントをモニターに提示し、説明・記入する。生徒のプリントにも記入させる。</li> <li>・特に主語の後の助詞が省略されるケースが多いことを注意喚起する。どれが主語かわからない生徒には、述語を見つけて、主語に助詞「が」を補うというヒントを与える。</li> <li>・「あやし」「うつくし」「ゐる」は現代語とはイメージの異なる古語であるため、特に覚えるよう、注意を払い説明する。他には「ながむ・眺める」などもあり、その例をあげ、時代とともに言葉の持つイメージが変わることを伝える。</li> </ul>
まとめ	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りを行う。</li> <li>・音読の録音課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史的仮名遣い」「古典の単語」「古文の読解」「正しい音読」について、生徒に学習の振り返りを行わせる。ハ行転呼音、「む」「うつくし」「ゐ」など、特に覚えてほしいものを印象づける。</li> <li>・音読の課題確認と生徒自身が学習の不足部分と感じている点を、デキタスを使用し、復習するように促す。</li> </ul>